

素晴らしいスタート

「加中の生徒はよく歌ってますよね」先週の水曜日、43名の新入生が入学しましたが、その準備・練習を見ていた、新しく着任された先生の職員室でのつぶやきです。先週は始業式・入学式・部活動発会式・歓迎遠足と全校生徒が集まる場面が多く、また、校歌を歌う機会も多かったのですが、生徒一人が意識し、適切に行動していました。とても素晴らしいスタートをきることができ、嬉しく思いました。

私は、年度初めによく先生方に言うのですが、「着任してすぐが、一番その学校の良いところ、改善すべきところが見えるものです。遠慮なく気づいたことを言ってください。」本校は、「大きな声で、気持ちをこめて歌うこと」は当たり前のことです。しかし、見方を変えると、実はこの当たり前はレベルの高いものなのです。私たちが目指すのはこれなのです。“高いレベルでの当たり前を当たり前とする”そして、それをさらに発展させる。そうすることで“集団の力”をフルに発揮する、同時に“個の力”を飛躍させる。“環境が人をつくる”と言います。“良い環境のなかで、それぞれが刺激しあい高めあう”そういう学校であることを切に願っています。



礼法指導

新学期が始まって1週間。この時期に見かける“職員室あるある”ですが、2年生なのに職員室入口で「1年1組の〇〇です。入ってもよろしいでしょうか!! あっ・・・」という場面もちらほら。とはいうものの、生徒も新しい学年に慣れ始め、授業もスムーズにスタートしました。ただ、やはり1年生は大きく環境が変わり、覚えなければいけないこと、慣れなければいけないことが多く、本当に大変そうです。その対処法の一環として、月曜日の6時間目、生徒会が中心となり1年生への礼法指導が行われました。“生活のきまり”から始まり、“礼の仕方”や“集団行動ルール”など、実演を交えながら説明を行い、実際に行動訓練も行っていました。それを見ながら、ずっと昔、先輩の先生から聞いた「躰は“おしつけ”ですよ」という言葉を思い出しました。辞書には、「“しつけ”とは、人間社会・集団の規範、規律や礼儀作法など慣習に合った立ち振る舞い(規範の内面化)ができるように、訓練すること。」と記してあります。当然、訓練には“押し付け”が必要です。できるまで何度もやらせることが大切です。一方、この“躰”という文字は、“身が美しい”と書きます。丁寧に繰り返し説明し、美しい所作を身に付けさせるという意味があります。だからこそ“お躰”なのです。社会生活において“躰”は欠かせないもの。今回の礼法指導をはじめ、あらゆる機会をとらえ、生徒への“しつけ”を行っていきたいと思います。それが“誠実で気力あふれる生徒の育成”につながると確信しています。